

米国の牛内臓肉の生産・輸出動向 ～タン・ハラミを中心に～

alicセミナー 平成30年12月20日
独立行政法人農畜産業振興機構
調査情報部 野田 圭介
<https://www.alic.go.jp/>

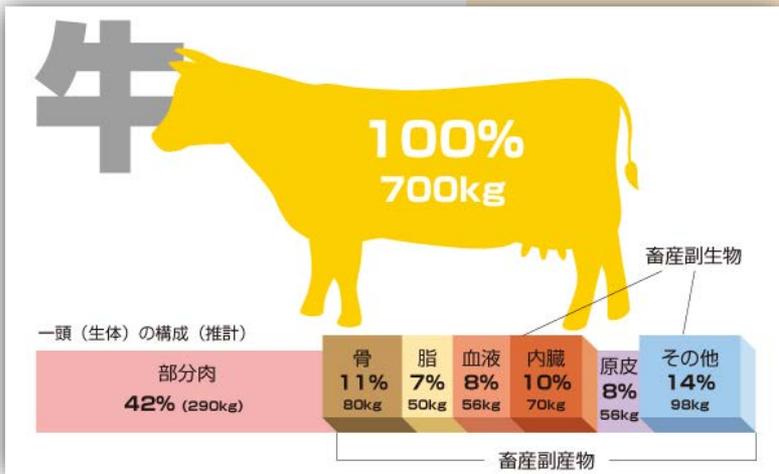
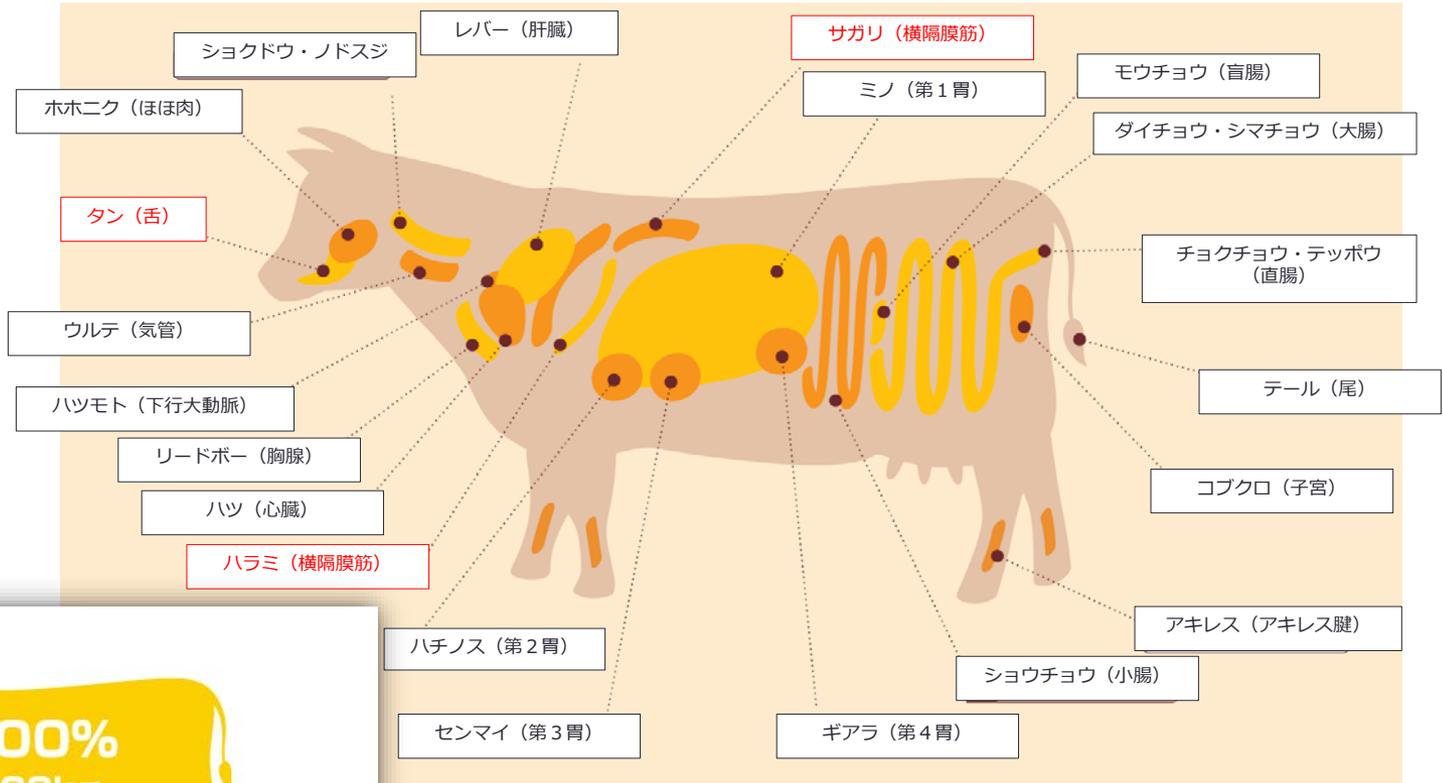
本資料の構成

- 1 はじめに
- 2 米国の牛内臓肉産業
 - (1) 生産
 - (2) 消費
 - (3) 輸出
- 3 米国産牛内臓肉（タン・ハラミ）を巡る最近の状況
- 4 今後の見通し
- 5 まとめ

1 はじめに：牛内臓肉の概要

さまざまな呼称

- モツ
- ホルモン
- バラエティミート
- ファンシーミート



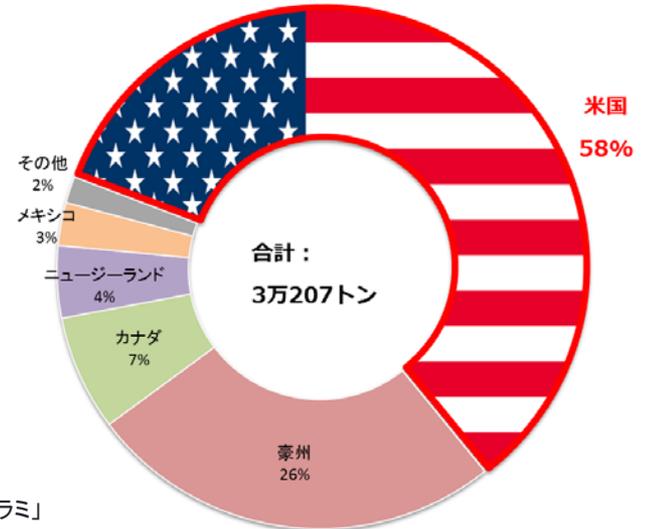
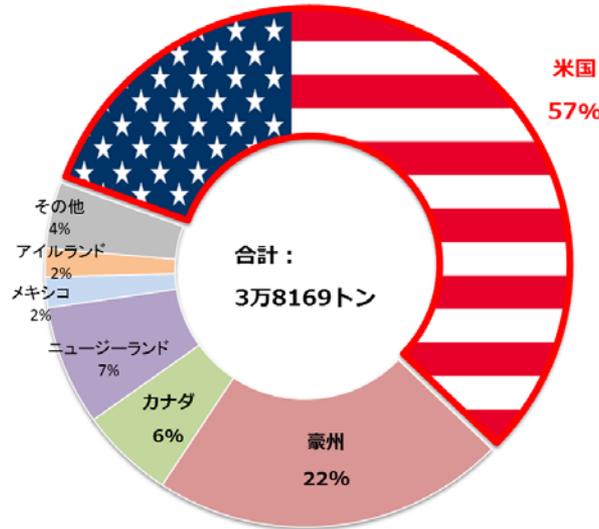
【牛内臓肉の特徴】

- ・ 食肉生産時に副次的に産出される可食部位
- ・ 部位ごとの重量は小さい
- ・ 検査による廃棄率が高い
- ・ 保存性が低い (腐敗が急激に進む)

1 はじめに：日本の牛内臓肉需要

日本の輸入先別タン・ハラミ輸入量（2017年）

ホルモン番付		東(豚の部屋)	
西(牛の部屋)	景御免 一般社団法人 日本畜産副産物協会 	横綱ハラミ (横隔膜)	横綱タン (舌)
横綱タン (舌)		横綱ショウチョウ (小腸)	
大関ホホニク (頬肉)		大関ガツ (胃)	
大関レバー (肝臓)		大関トンソク (豚足)	
関脇シマチョウ (大腸)		関脇レバー (肝臓)	
小结ハツ (心臓)		小结ハツ (心臓)	
前頭ミノ (第1胃)		前頭ハラミ (横隔膜)	
前頭ハチノス (第2胃)		前頭ダイチョウ (大腸)	
前頭センマイ (第3胃)		前頭カシラニク (頸肉)	
前頭ギアラ (第4胃)		前頭コブクロ (舌)	



注：関税区分の都合、本資料中の「ハラミ」に関するには統計にはサガリ等を含む。

(参考) 世界の牛内臓肉消費事情 (タン・ハラミ編)

欧州



南米



台湾

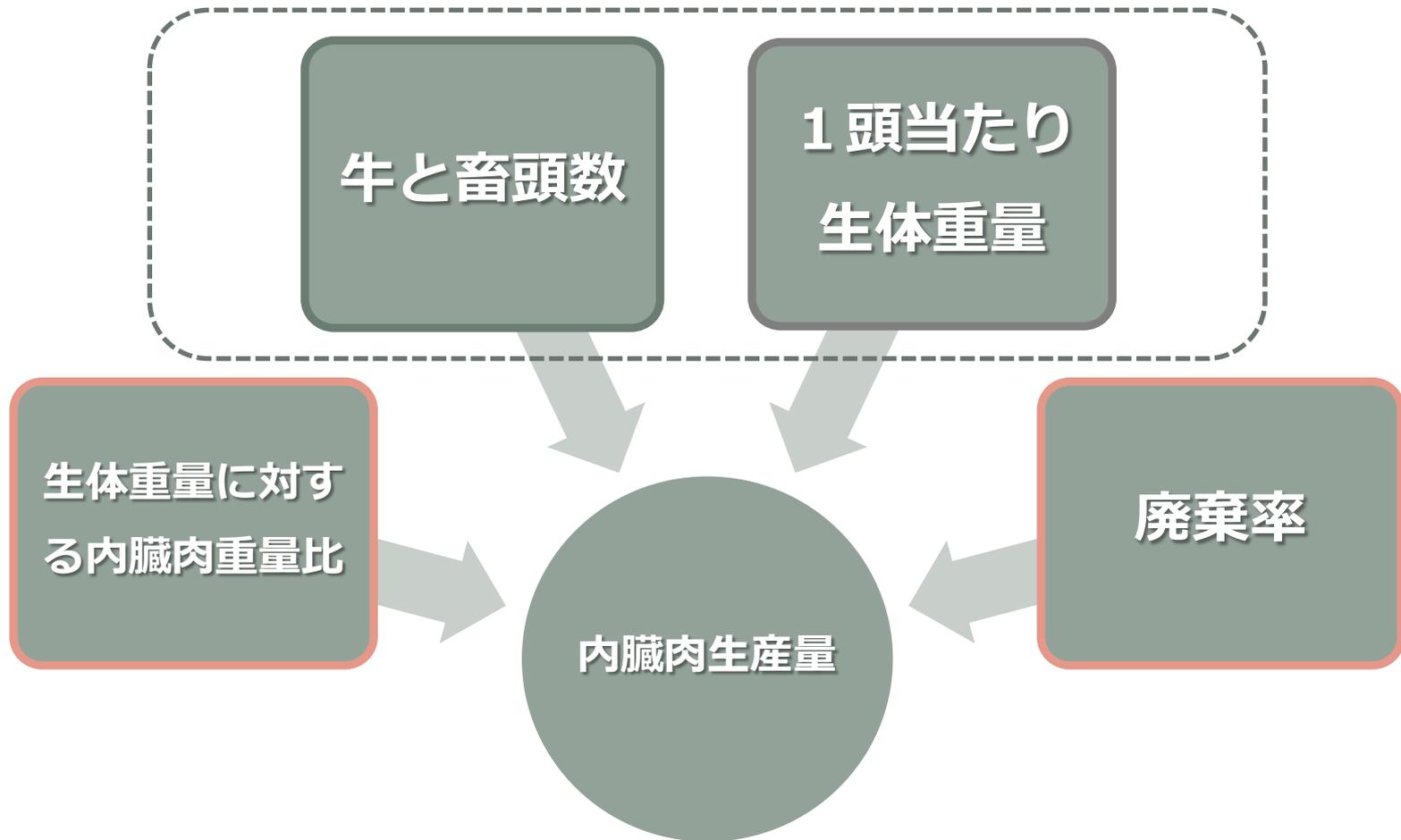


2 米国の牛内臓肉産業

米国の牛内臓肉産業の概要

- 牛内臓肉の供給余力は**世界最大級**
- 極めて**小さい**国内市場
- 食肉パッカーは**主に輸出市場向け**に牛内臓肉を製造
- 牛内臓肉収入は**牛肉産業全体を下支え**

(1) 生産 牛内臓肉生産量の試算

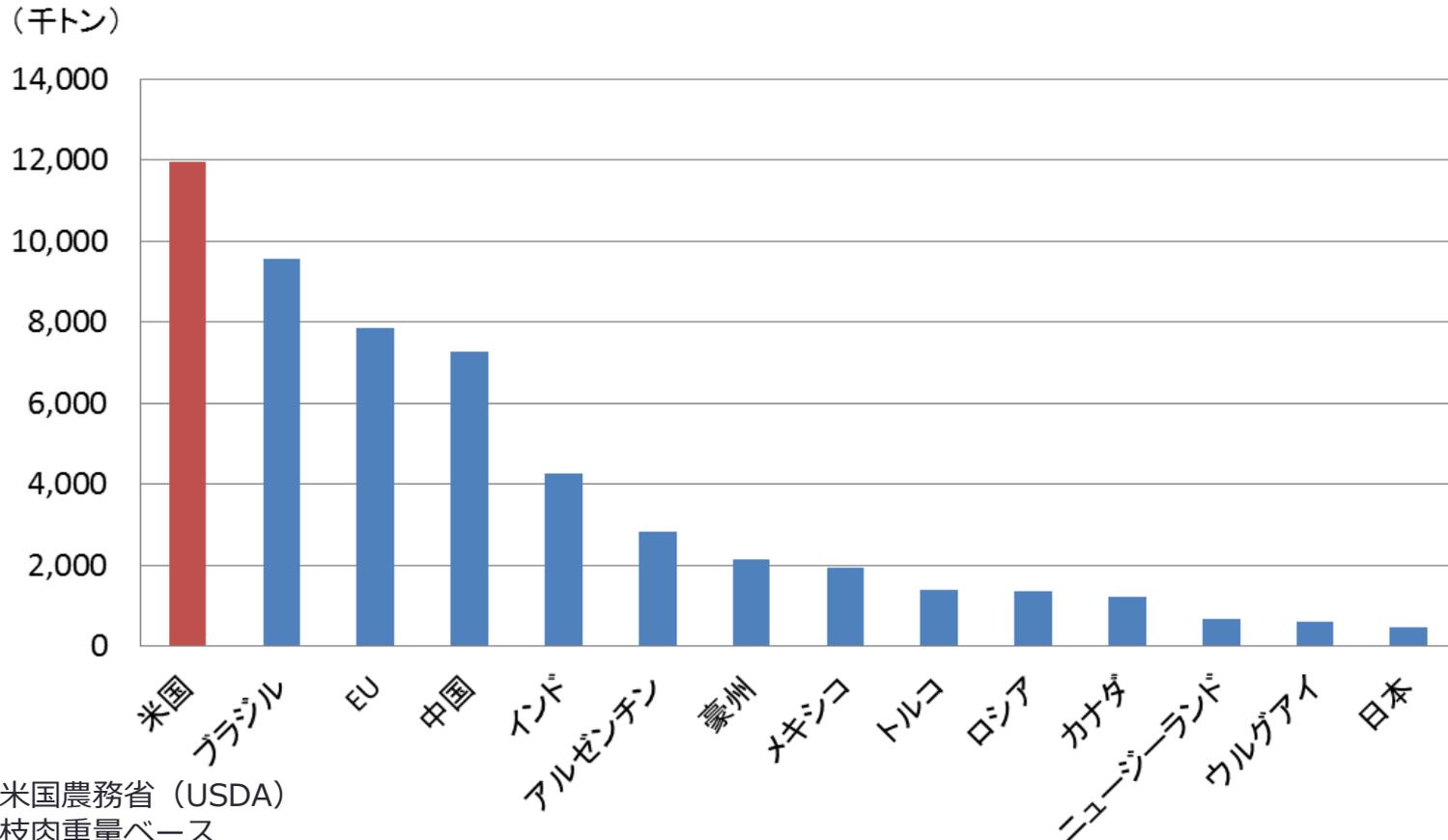


牛内臓肉生産量は牛肉生産量と正の相関関係

(1) 生産

仮説：牛肉生産大国 = 牛内臓肉生産大国

主要国の牛肉生産量（2017年）



米国の牛内臓肉供給余力は世界最大級

(1) 生産
例：タン生産量の推計（2016年）

牛1頭当たり生体重



牛と畜頭数



約7万トン

生体重に対するタンの割合

タンの廃棄率

0.38%

1.9%



資料：USDA、全国肉用牛生産者・牛肉協会「2016 National Beef Quality Audit Executive Summary」、Ockerman and Hansen『Animal By-Product Processing & Utilization』（2000年）

(1) 生産 牛内臓肉製造工程①



放血・皮剥



頭部除去 → カシラ肉・**タン**等の処理工程へ



内臓取り出し → 部位別内臓肉処理工程へ



背割り

枝肉処理工程へ

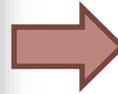
ハラミは部分肉の一種として処理

(1) 生産

牛内臓肉製造工程② (タン)



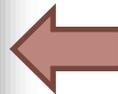
胴体と頭部を分離した後、
タンを取り出す



タン元に付着している扁桃
を取り除く



整形・皮剥き・袋詰め



扁桃の残骸を入念に除去

(1)生産

米国産牛内臓肉の優位性

穀物肥育

【タン・ハラミに及ぼす影響】

- 1頭当たり内臓肉重量
- 歩留まり
- 脂肪交雑

(2) 消費 米国の牛内臓肉消費事情

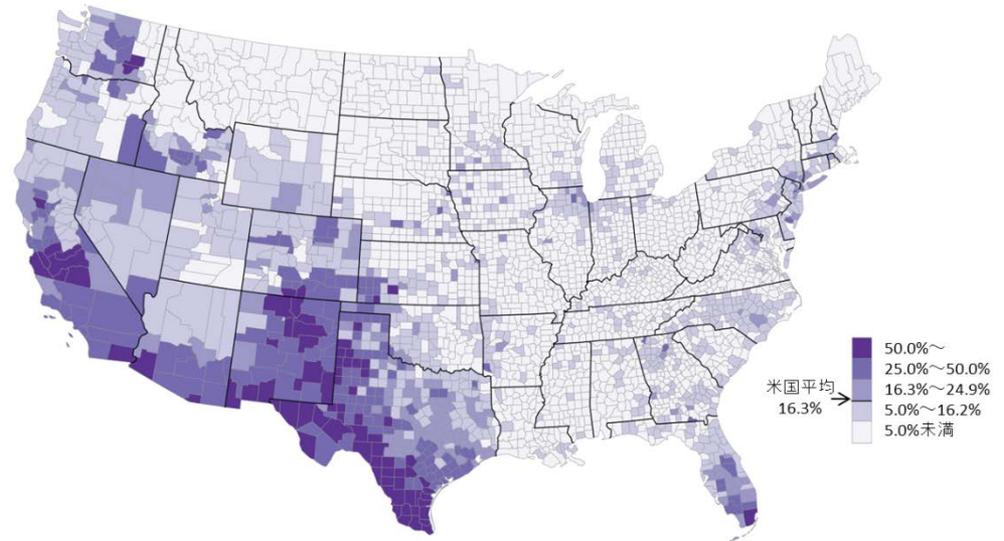
1人当たり年間内臓肉消費量 (2013年)

(単位:kg)

順位	国・地域	数量
1位	香港	26.77
2位	モンゴル	10.34
3位	セルビア	9.41
4位	豪州	7.96
5位	ベラルーシ	7.77
9位	フランス	5.86
12位	アルゼンチン	5.56
13位	ペルー	5.44
14位	ニュージーランド	5.18
15位	カザフスタン	5.17
16位	メキシコ	5.09
22位	スペイン	4.71
26位	韓国	4.44
48位	中国	3.44
71位	日本	2.74
83位	ブラジル	2.32
	世界平均	2.24
171位	米国	0.44

資料：国際連合食糧農業機関
注：牛以外の内臓肉も含む。

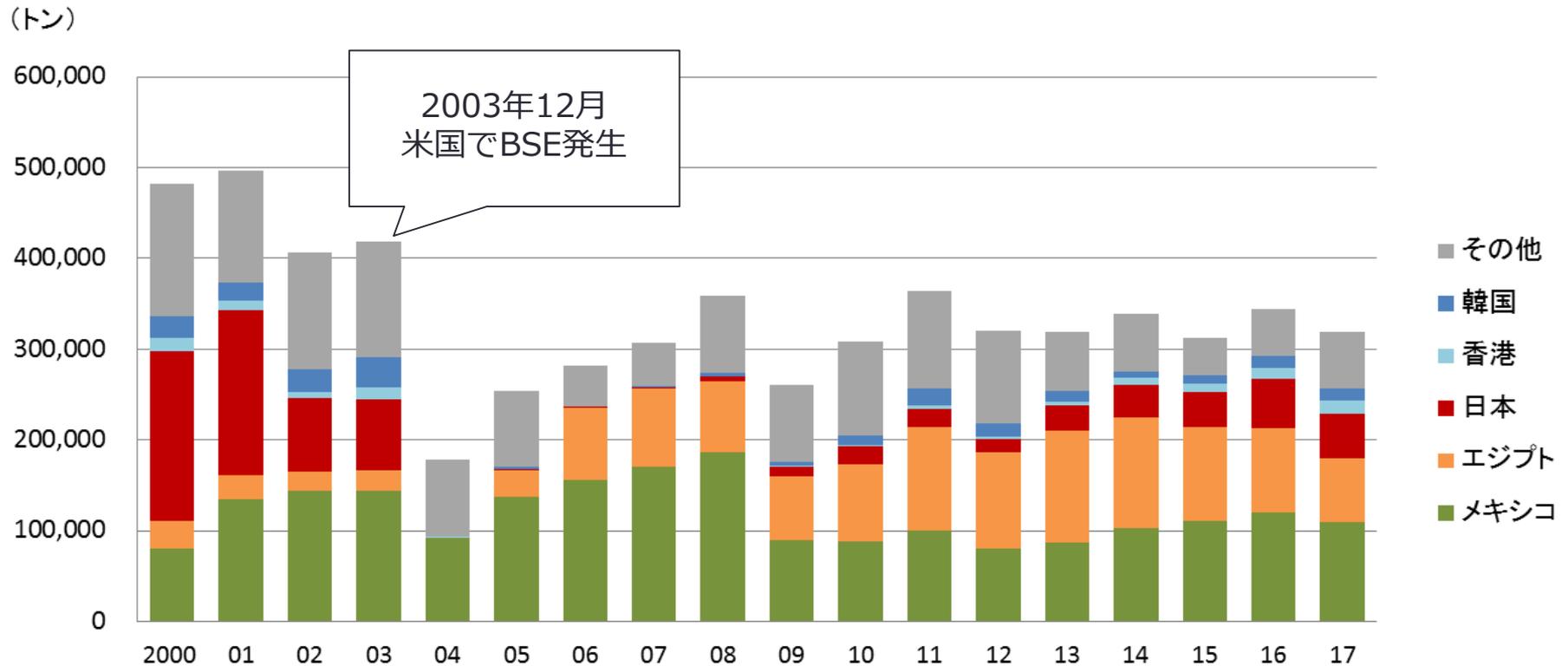
ヒスパニック系人口の分布 (2010年)



資料：米国国勢調査局



(3) 輸出 主要輸出先別牛内臓肉輸出量の推移



2003年12月
米国でBSE発生

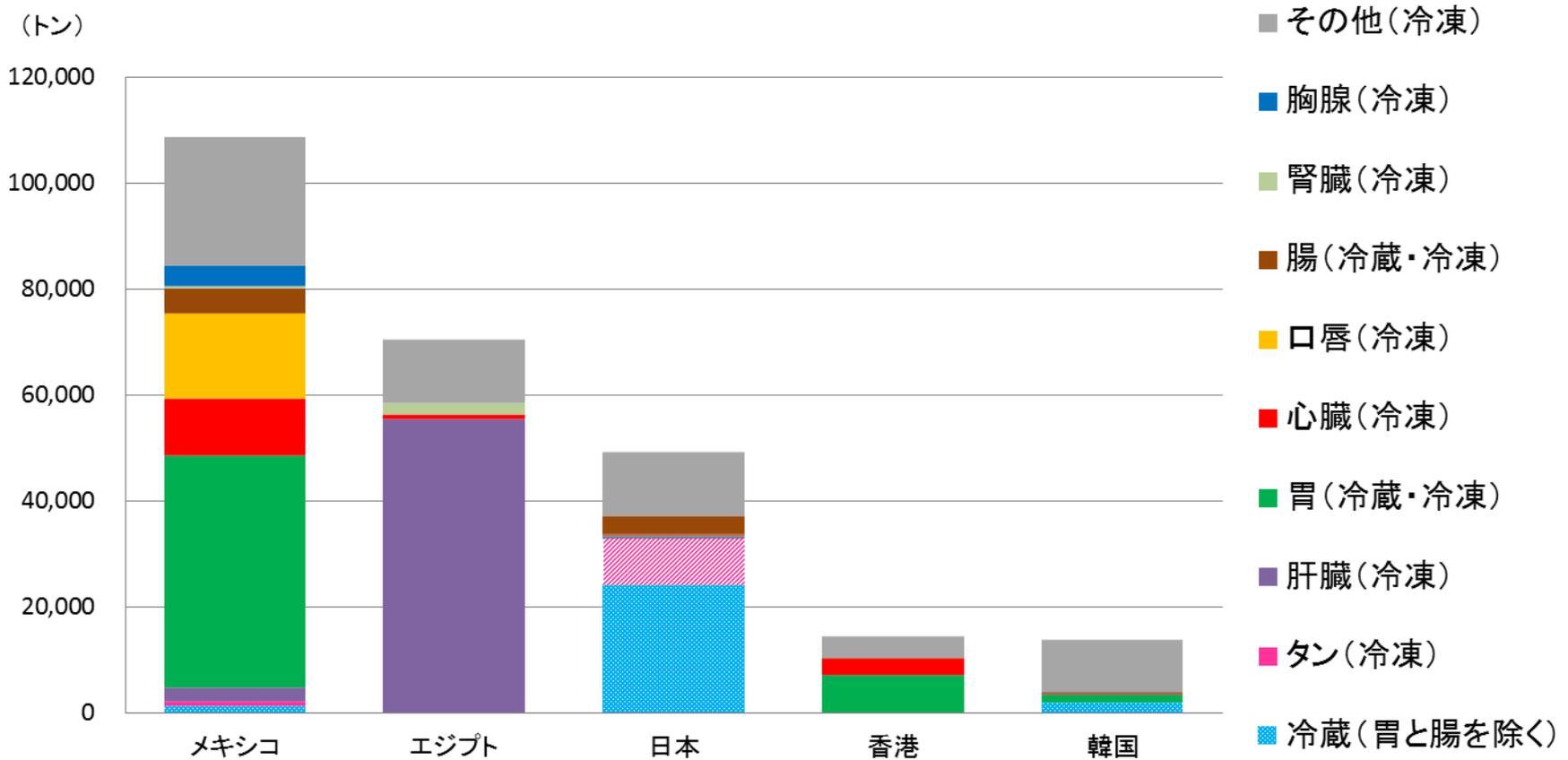
2005年12月
日本、米国産輸入再開

2013年2月
日本、月齢制限を緩和

資料: U.S. Department of Commerce
注: 製品重量ベース。

(3) 輸出

主要輸出先別・品目別牛内臓肉輸出量 (2017年)

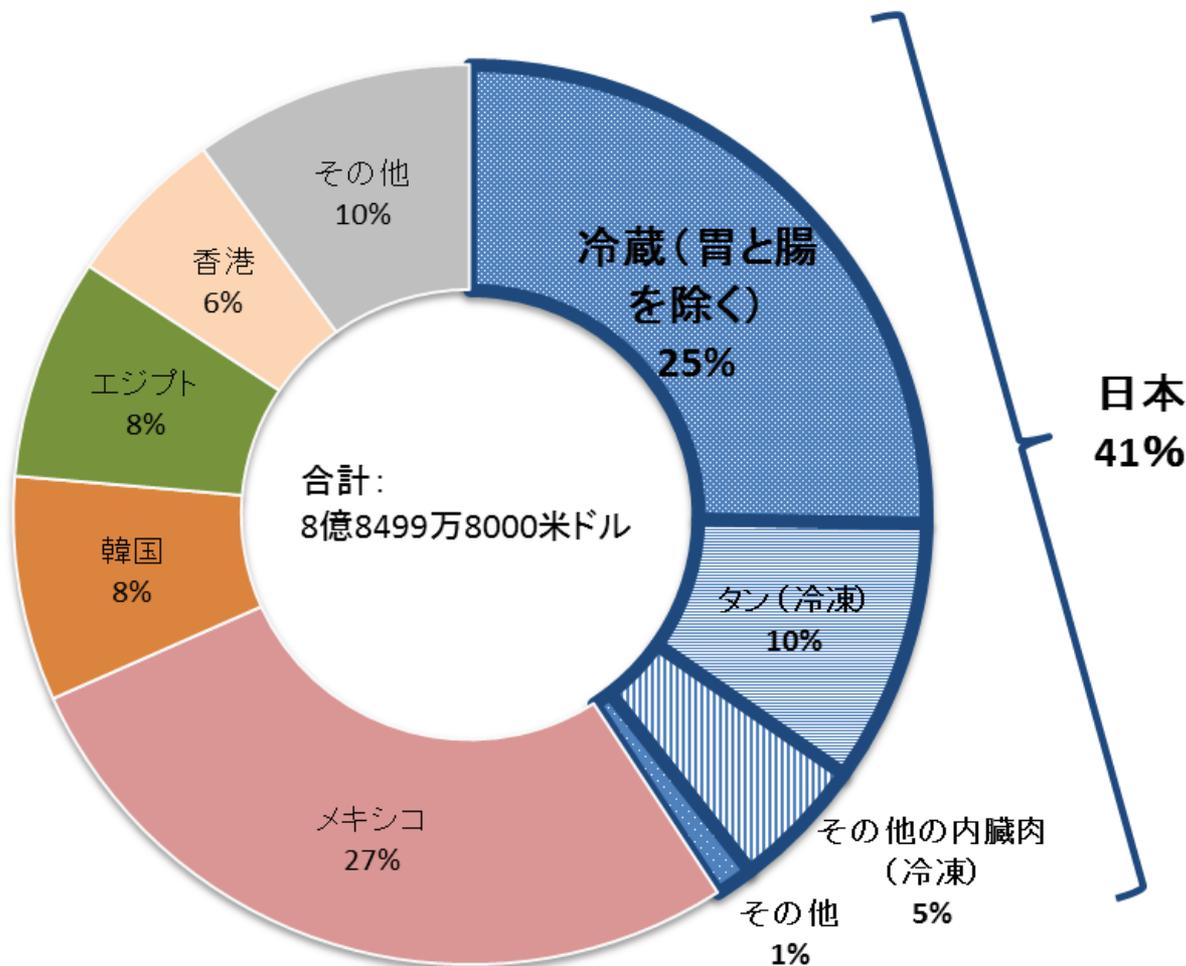


資料: U.S. Department of Commerce

注: 製品重量ベース。

各国・地域の食文化やニーズに合わせた輸出が可能

(3) 輸出 輸出先別牛内臓肉輸出額 (2017年)



資料: U.S. Department of Commerce

牛内臓肉輸出は対日輸出に大きく依存

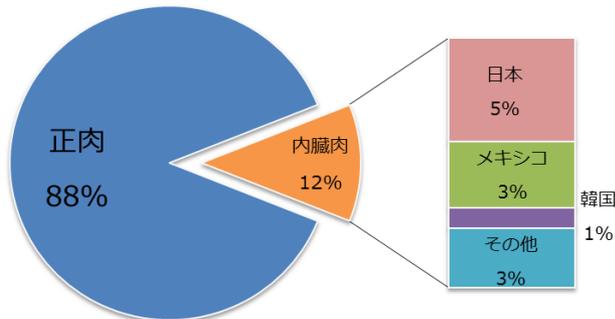
(参考)米国の牛肉産業における牛内臓肉の重要性

生体取引

パッカー

- ・ 牛内臓肉販売収入を享受
- ・ **輸出**において重要な収入源

米国の牛肉（正肉+牛内臓肉）
輸出額の内訳（2017年）



資料：米国食肉輸出連合会

肉用牛生産者

- ・ 生体取引のため、牛内臓肉収入は直接還元されない
- ・ しかし、間接的な恩恵を享受する可能性はある

牛内臓肉輸出増



生体牛価格上昇

牛内臓肉は牛肉産業全体を下支え

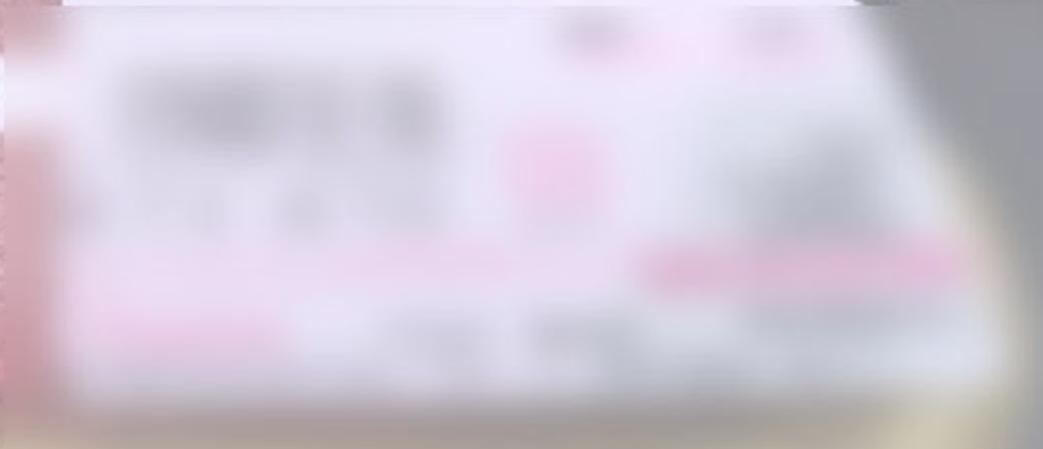
3 米国産牛内臓肉(タン・ハラミ)を巡る 最近の状況

お買得品

買得
1パック

864円

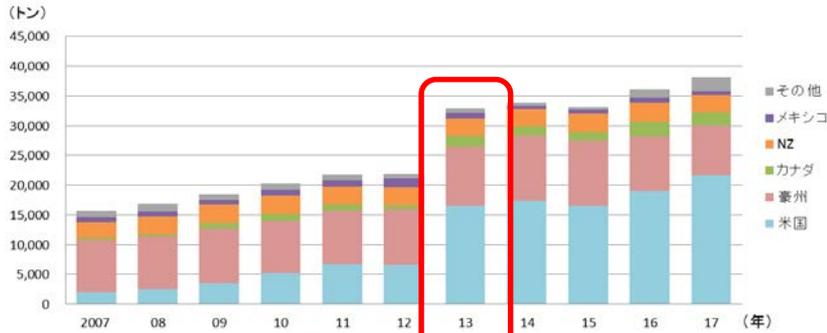
アメリカ産牛タン



3 最近の動向（1） 対日輸出増

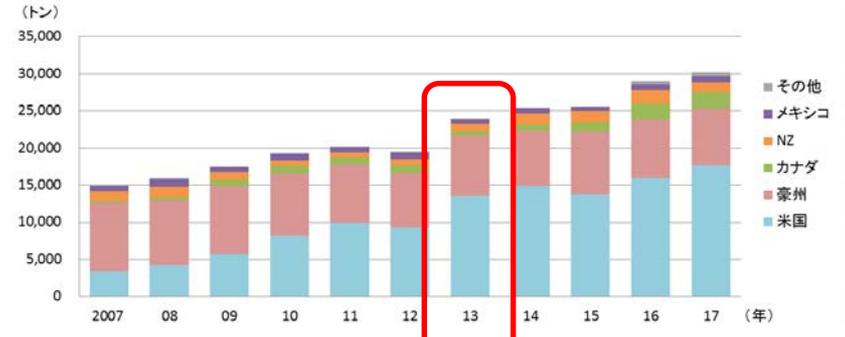
日本：タン・ハラミの輸入先別輸入量の推移

(タン)

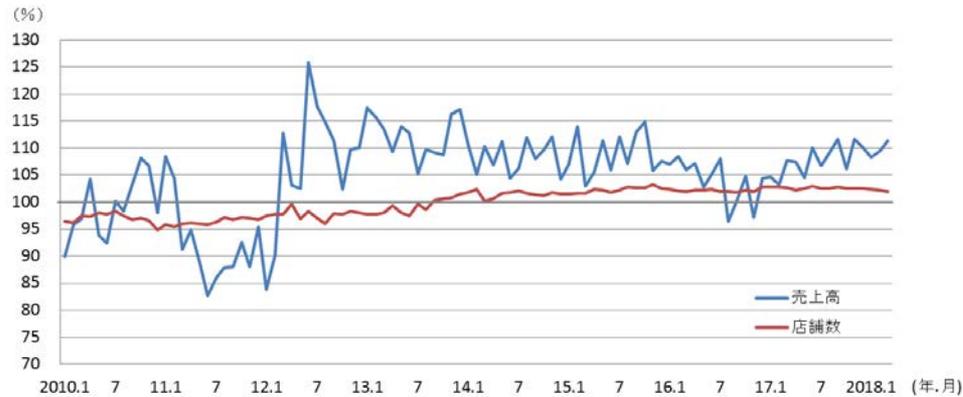


資料：財務省「貿易統計」

(ハラミ)



焼肉店の売上高・店舗数の推移 (前年同月比)



資料：一般社団法人日本フードサービス協会の資料を基に機構作成
注：「外食産業の動向」のうち、「ファミリーレストラン・焼肉」のデータを集計。

月齢制限の緩和や、肉ブーム等を背景とした焼肉需要増が作用

3 最近の動向（2） 米国産タン・ハラミに対する新たな需要

アジア市場でタン・ハラミに対する需要が伸長

代表的な
消費形態

- 火鍋
- 焼肉



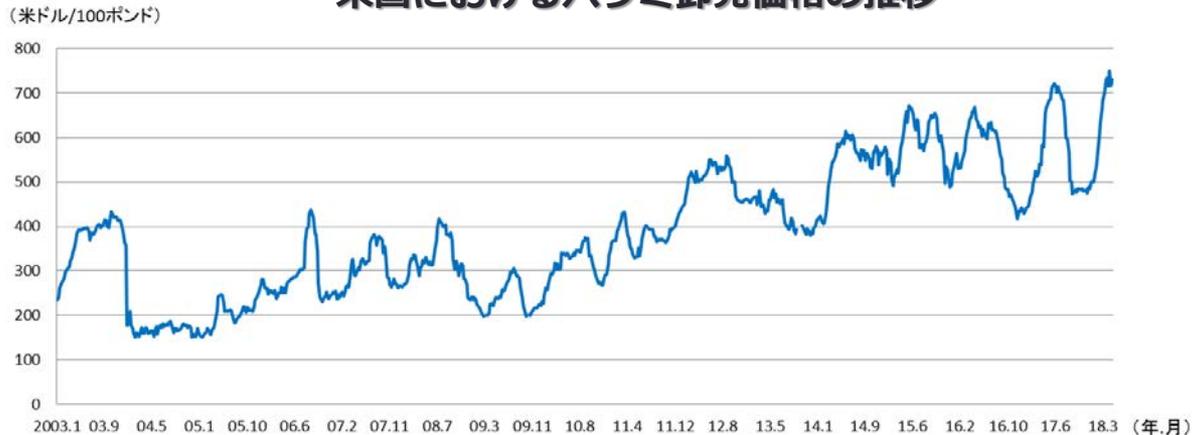
日本食ブームが牽引



3 最近の動向 (3) 米国内市場の成長



米国におけるハラミ卸売価格の推移



資料: USDA

注1: ハラミ(皮付き)の卸売価格。

注2: 2013年10月第1~3週は非公表。

貿易環境の変化や移民人口の増加により一部の牛内臓肉需要が増加

A top-down view of a dark, textured plate containing a meal. In the foreground, there are several pieces of braised beef, glistening with a dark sauce. Behind the beef, there is a pile of white bean sprouts and yellow corn kernels. The text '4 今後の見通し' is overlaid in the center of the image.

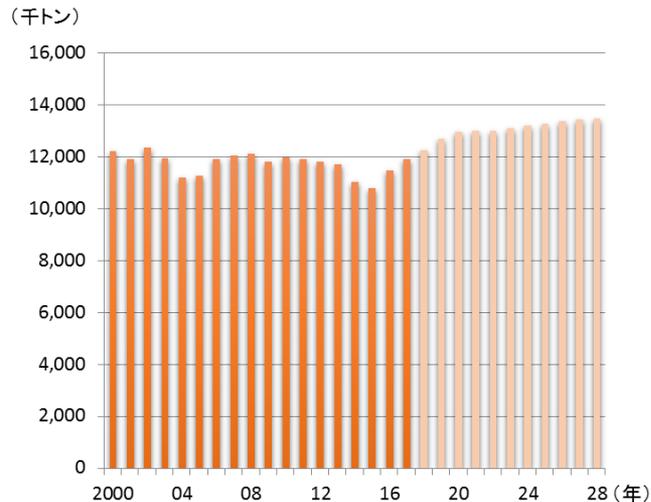
4 今後の見通し

4 今後の見通し（生産）

好調な肉用牛生産

- 牛飼養頭数は過去最高水準
- 枝肉重量も堅調に推移

（参考）牛肉生産量の推移と見通し



資料：USDA

注1：枝肉重量ベース

2：2017年までは実績値。2018年以降は予測値。

トランプ政権の移民政策

- 食肉パッカーは食肉処理業務の多くを移民労働力に依存
- 移民規制の強化が内臓肉製造キャパシティに影響が及ぼす懸念も



4 今後の見通し (輸出)

各種貿易協定の余波

TPP11協定

日EU EPA



日本市場で競合



カナダ産のタン

日本の月齢規制の行方

対日輸出増の可能性

- タン・ハラミへの影響は軽微との見方も
- ミノ等の輸出余力が増加するとの期待



米国のフィードロット

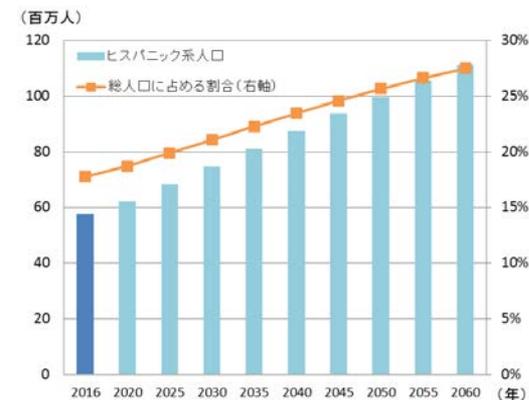
米国内外の需要動向

需要増の傾向



価格上昇の可能性

(参考) ヒスパニック系人口の推移予測



資料: U.S. Census Bureau
注: 2016年は推測値。2020年以降は予測値。



5 まとめ

5 まとめ

生産

- **世界最大級の牛内臓肉供給余力**
- **収入源のひとつとして、牛内臓肉は牛肉産業にとって欠かせない存在**
- **引き続き堅調な供給余力が見込まれるも、移民政策が懸念**

輸出

- **牛内臓肉輸出は日本向けタン・ハラミ輸出が牽引**
- **国内外の需要増により一部内臓肉の価格は上昇傾向で推移**
- **貿易環境の変化が牛内臓肉需給に影響を与える可能性も**

ご清聴ありがとうございました。

「畜産の情報」 2018年7月号に掲載しております。

※ メールマガジンのご案内

独立行政法人農畜産業振興機構は、情報誌「畜産の情報」を毎月発行し、ホームページでも提供しているほか、メールマガジンにより、毎月2回（5日、25日）、最新の情報を配信しています。

メールマガジンの配信を希望される方は、機構ホームページ
(<https://www.alic.go.jp>) 右の「メールマガジン」ボタンからご登録ください。



本情報は、情報提供を目的とするものであり、取引・投資判断の基礎とすることを目的としていません。本資料の正確性の確認等は、各個人の責任と判断でお願いします。提供した情報の利用に関連して、万一、不利益が被る事態が生じたとしても、ALICは一切の責任を負いません。